

「公共交通への投資」の有無が、都市の生死を分ける

京都大学大学院教授 藤井聡

①栄えているまち／栄えていないまち → 都市「間」公共交通がその「生死」を分けた！

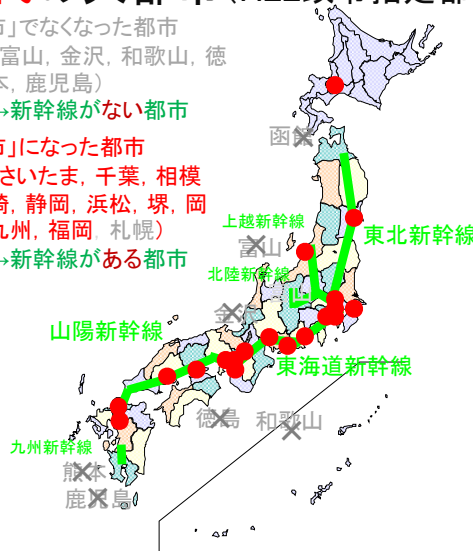
現代の大都市 (H22政令指定都市+東京)

「大都市」でなくなった都市
(函館, 富山, 金沢, 和歌山, 徳島, 熊本, 鹿児島)

→新幹線がない都市

「大都市」になった都市
(新潟, さいたま, 千葉, 相模原, 川崎, 静岡, 浜松, 堺, 岡山, 北九州, 福岡, 札幌)

→新幹線がある都市



つまり、新幹線が整備された都市は、大きく発展し、整備されなかった都市は、大きく衰退した！

- ・公共交通への「公共投資」は莫大な発展をもたらす。
- ・財政収支「だけ」を見ても、長期的には確実に「プラス」になっている！

→宇都宮は、大きく発展する「ポテンシャル」を持っている。

理由) 「都市」は生き物である。そして、その生き物は、「人の流れ」を「栄養分」として成長する。そして、**大量に人々を「供給」する「公共交通」は、都市という生き物を成長させる上で、最大の「栄養供給装置」なのである！**

②宇都宮が、次のステップにいけるか否か → 都市「内」公共交通が「生死」を分ける

- 東京・大阪・名古屋には、「軌道系」の都市「内」公共交通が整備されている！

例) 京都は、皇室の東京への行幸によって、決定的な「衰退」を運命付けられた...その時、政府はそれを食い止めるために、「路面電車」を日本ではじめて整備し、これが、近代京都を支え続けた。

- 「クルマ」に過剰に依存する都市は、**絶対に**大きく飛躍することができない。

理由) 「クルマ・システム」では、都市に「栄養分」を大量に供給することができない。しかし、**公共交通、とりわけ「鉄道・LRT」は、大量に栄養分を都市の隅々にまで供給できる。それによって、都市は飛躍的に発展する！**

- 100億～200億円程度の「公共交通」投資は、都市を発展させる。つまり、人口を集積させ、商業を集積させ、「経済成長」をもたらす「税金」を増強させる。そして、最終的に、**長期的に「必ず」財政を改善**する。